

このような状況にあり、なおキャンパスネットワークのセキュリティレベルを向上させるために最も重要な課題は、個々の利用者の意識改革であるといえる。まずは是非とも「ネットワーク上においても自分の身は自分で守る」という心構えを持っていただくようお願いしたい。

(さわだ あつし)

謝辞

本稿執筆にあたって、本学情報学研究科の岡部寿男助教授をはじめ、KUINS機構の関係諸氏からの助言をいただいた。ここに感謝する。

(平成12年9月25日「京都大学附属図書館講演会」から)

2000年京都電子図書館国際会議開かれる

11月13日から17日にかけて、京都大学、BL(英国図書館)、NSF(米国国立科学財団)主催で「2000年京都電子図書館国際会議：研究と実際」が、アジア、欧米10カ国の最先端技術の研究者と図書館関係者約200人が参加し、附属図書館3階AVホールと同4階大会議室で行われました。



この国際会議は研究者、図書館関係者双方の立場から電子図書館についての説明及び研究発表、パネル討論が行われ、資料の電子化、検索システム、著作権問題、国際協力等について電子図書館の課題を探るために日本ではじめて行われたものです。

初日オープニングは佐々木丞平館長、尾崎春樹文部省学術国際局学術情報課長の挨拶に始まり、長尾真総長の基調講演「情報技術の発展と図書館機能の拡大」があり、2日目午前中に

かけて電子図書館の概観、実際、未来について研究発表がありました。午後からEnglish Programに入り、基調講演、Future Librariesについてのパネル討論があり、4階大会議室でテレビ表示をもとに日本語通訳も行われました。英国図書館理事会長(前英国図書館長)J.M.アッシュワース氏の講演では、デジタル化技術や新しい電子コミュニケーションが従来提供してきた図書館サービスに与える影響について説明され、デジタル化が進む中で、将来に役立つ結果を得るためには図書館の相互協力と国際的な共同研究の必要性が強調されました。このほか、最新技術の紹介や参加者による懇親の会も開催されました。



英国図書館理事会長 J.M.アッシュワース氏

また、この国際会議と平行して13日に日本、韓国、中国、イギリス、アメリカ、イタリア各国の図書館長等関係者が一同に会して、「電子図書館に関する図書館長会議」が行われました。会議は、長尾真総長及び佐々木丞平館長の共同議長により議事が進められ、電子図書館間の協力促進、変貌する学術出版物の図書館の対応、図書館のIT化促進への協力、ネットワークに係わる著作権問題への対応の4つのテーマについて討議されました。合意内容は、14日に長尾

真総長をはじめ6カ国31人の連名で電子図書館の推進のための共同声明「電子図書館京都コミュニケ」としてまとめられ、パネル討議の席上、長尾真総長から発表され、今後、電子図書館の健全な発展のために協力し、努力していくことが確認されました。

当日、日本語プログラムと英語プログラムの予稿集が配布され、会議録は日本図書館協会から日本語版、IEEE Computer Society Pressから英語版が出される予定です。



全米科学財団からM.レスク氏の報告



英国図書館からリチャード・ローマン氏の報告



長尾真総長の基調講演



電子図書館に関する図書館長会議